

空間系エフェクターの知識

空間系エフェクターとは？

サウンドにホールやスタジオ、トンネルや洞窟などの残響をプラスしたり、やまびこ効果を付加するエフェクター。

主に「ディレイ」「リバーブ」の2種。

いずれも音の広がりや奥行きなど、空間を演出するのが主な役割。

■ ディレイ

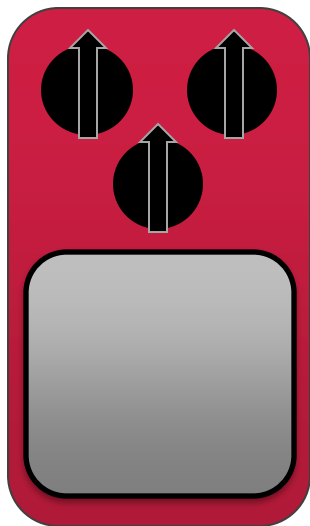
音を遅延させてやまびこ効果を得る

■ リバーブ

音に残響を与える

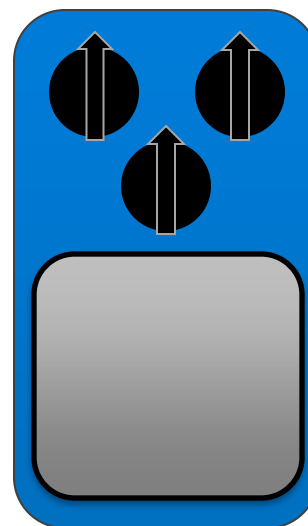
空間系エフェクターとは？

ディレイ



- やまびこ、エコーをシミュレート
- アナログの方が音がまろやか
- テンポに合わせたディレイをフレーズに取り入れる場合もある

リバーブ



- ホールや洞窟の残響をシミュレート
- コンパクトタイプのアナログは存在しない
- Fender アンプのスプリングリバーブを模したモデルも多い

ディレイの特徴

ディレイ

原音に対して遅れた音を混ぜ、やまびこのような反射音を得るエフェクト。

「エコー」とも呼ぶ。テープを使った「テープエコー」BBD素子を使った「アナログディレイ」デジタル方式の「デジタルディレイ」などがある。

テープディレイは演奏音をテープに録音して、遅れて再生させる仕組み。大型で高価なため一般人には手の届かない代物だった。

BBD素子を用いた小型のストンプが開発され多くのギタリストに普及した。時代の流れとともにデジタル化していった。

リバーブの特徴

リバーブ

サウンドにホールや洞窟のような残響を加えるエフェクト。

リバーブがペダルとして発売されるようになったのは比較的近年の70年代末のこと。

50年代からFenderアンプにはスプリングリバーブが搭載されていた。

これは残響を得るためにバネ(スプリング)を使うが構造上小型化する事が難しく、ペダル方のリバーブが登場するのはデジタルリバーブが開発されて以降の事である。

リバーブはPA出かけてもらう事多いためペダルとしてはそれほど普及しなかった。スプリングリバーブを模したモデルなどもある。